



ソプラノ歌手
あさみ せれな
浅見 聖怜奈さん

Profile

1997年栃木県生まれ。群馬県立前橋女子高等学校を卒業後、国立音楽大学に進学。同大学院の博士課程に在学している。演奏会やコンサートなどに数多く出演。

歌で勇氣と感謝を

人

間の体を楽器として奏でる「歌」。「器楽」とは違い、唯一無二の声で演奏をします。そんな歌が自身にとって最も努力でき、好きなことだと語る浅見さん。

実家がピアノ教室だったこともあり、物心付いたときから音楽に触れて育ち、高校時代は音楽部に所属。部活でミュージカルと合唱に取り組んだことをきっかけに声楽を習い始めます。演劇・歌・踊りが一体となったミュージカルを学ぶため大学に進学した浅見さんですが、同級生の実力を目の当たりにしたこと、見える世界が広がったことで進む方向性に迷いが生じます。そして、より自分の良さを生かせると感じた声楽・オペラの道に進む決断をした大学2年生の当時を振り返ります。

歌のやりがいにはゴールがないことだそう。「音楽の中で唯一言葉を抱う歌は、楽譜を頼りに作曲家と詩人の思い、そして自身の解釈を乗せるため、決して嘘は付けない」と話します。しかし、活動する中にはオーディションに落ちたりなど自分自身を否定されるような機会も少なくはありません。

それでも歌うことのやりがいや楽しさ、周囲の励ましの言葉を信じて日々自己研さんを積んでいます。

そんな浅見さんは、ソプラノ歌手として活動する傍ら、子どもたちに歌の指導もしています。「音楽・歌を通じて自己表現をし、感性や表現力を養い、心を育ててほしい。そして、どんな分野であっても自分がやりたい、いいなと思っただけを頑張る人たちに勇氣を与えられたらうれしい」と話します。また、「一緒に学ぶ子どもたちが将来どんな道に進もうと、音楽に注いだ情熱は生きるはず。何事にも真摯に向き合うことの大切さが伝わったらいいな」と話します。

今後の展望を尋ねると、「食欲にそして謙虚に学び続け、舞台上に立ち歌っていくこと。夢は大きく、世界の歌劇場で活躍したい」と語ります。続けて、「歌で恩返ししようという大それたことは言えないけど、自分に関わってくれた人たちに歌で感謝を伝えられたら」と少し照れながら話す浅見さん。いつか日本だけでなく、海外でも多くの人々を魅了する歌声を披露する姿が見られるかもしれません。